

第8回 スポニチ杯
第56回 日本少年野球連盟選手権大会 静岡県支部予選



公益財団法人
日本少年野球連盟

期間 令和7年6月14日(土)15日(日)21日(土)22日(日)

会場 愛鷹球場/浜松球場/磐田球場/裾野球場

主催 (公財)日本少年野球連盟 静岡県支部
(公財)日本少年野球連盟

協賛 株式会社スポーツニッポン新聞社

⚠️ ボーイズリーグは一切の暴力、暴言を禁止しています。



Japan Boys Baseball

野球をしながら
団結・友愛・規律・勇気・忍耐
身につけよう

(公財)日本少年野球連盟定義 第3条

本財団は、ボーイズリーグを通じ、硬式野球を愛好する少年に正しい野球のあり方を指導し、野球を通じて心身の鍛錬とスポーツマンシップを理解させることに努め、規律を重んじる明朗な社会人としての基礎を養成し、もって次代を担う少年の健全育成を図ることを目的とする。

公益財団法人 日本少年野球連盟

会長 惣田 敏和

本部 大阪市浪速区日本橋西1丁目3番19号

南海日本橋ビル2F

TEL. 06-6649-0061

第8回 スポニチ杯第56回 日本少年野球連盟選手権大会 静岡県支部予選

大会顧問	(公財)日本少年野球連盟	名誉会長	惣田敏和
	(公財)日本少年野球連盟	会長	大富 肇
//	(公財)日本少年野球連盟	相談役	堀内 健
//	(公財)日本少年野球連盟	中日本ブロック長	坂野晃嗣
//	(公財)日本少年野球連盟	静岡県担当理事	松尾 勝
大会名誉会長	株式会社スポーツニッポン新聞静岡支局長		仁木弘一
大会会長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部支部長	山本浩士
大会運営委員	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部副支部長	鈴木貴司
大会運営副委	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部行事委員長	山田 登
大会事務局長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部副支部長	富樫憲之
大会事務局	(公財)日本少年野球連盟	御殿場ボーイズ代表	芹澤輝充
大会広報委員長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部広報委員長	瀧澤佳孝
大会IT委員長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部IT委員長	初山浩志
大会会計委員長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部会計委員長	宮本浩和
大会審判委員	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部審判委員長	森重明
大会審判長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部審判長	高林俊光
大会審判員	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部	審判員諸氏
大会運営委員	(公財)日本少年野球連盟	静岡葵ボーイズ代表	芦澤厚史
//	(公財)日本少年野球連盟	菊川ボーイズ代表	池田竜司
//	(公財)日本少年野球連盟	浜松ボーイズ代表	梅谷保彦
//	(公財)日本少年野球連盟	静岡府中ボーイズ代表	熊切大介
//	(公財)日本少年野球連盟	浜松修学舎ボーイズ代表	倉島裕貴
//	(公財)日本少年野球連盟	磐田ボーイズ代表	中村好寛
//	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部役員	宮本 博之
//	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部役員	進士佳典

第8回スポニチ杯第56回日本少年野球連盟選手権大会静岡県支部予選

月	日	曜日	確保球場	開門	第1試合	第2試合	第3試合	第4試合	責任審判員	担当チーム
6	14	土	磐田球場	8:00	A1	A6				
6	14	土	富士球場	8:00	A2	A5				
6	14	土	愛鷹球場	8:00	A3	A4				
6	15	日	磐田球場	8:00	B1	B4				
6	15	日	富士球場	8:00	B2	B3				
6	21	土	磐田球場	8:00	準決1	準決2				
6	22	日	磐田球場	10:00	決勝					

グラウンド担当 大会3日目の担当チームは、勝ち上がりチームにて行います。

順延時

都度支部にて決定後、該当チームの代表へ連絡します。
 * 中止決定は、当日6:00に担当チームが判断し、該当チームの代表及び支部長、事務局長、審判委員長、事業部長へ連絡してください。

参加権

優勝…第56回全国選手権大会出場

大会規定

2025年公認野球規則ならびに、(公財)日本少年野球連盟特別ルールを厳守します。
 (公財)日本野球連盟が定める「中学生投手の球数制限に関する統一ガイドライン」を厳守します。
 ※支部大会においては、4回にインターバルを5分取り、その5分は、試合時間に含まれない事とする
 新型コロナウイルス対策及び大会開催運営に関するガイドラインの遵守

大会参加費

大会参加費7,500円＋特別負担金7,500円 合計¥15,000円を支部会計へ振込んでください。
 ※尚、抽選後棄権の場合は、返金しません。
 * 各チームはトスを行う時、試合球2球を主審へ提出する。(不足時は両チームから1球ずつ提供)

大会特例

抽選時、支部春季大会優勝()・準優勝()を別ブロックとし、先行抽選します。

審判費用

各球場にて審判員費用を清算します。
 * 各球場責任者は、責任審判より表を受理し、該当額を支払ってください。

審判要請

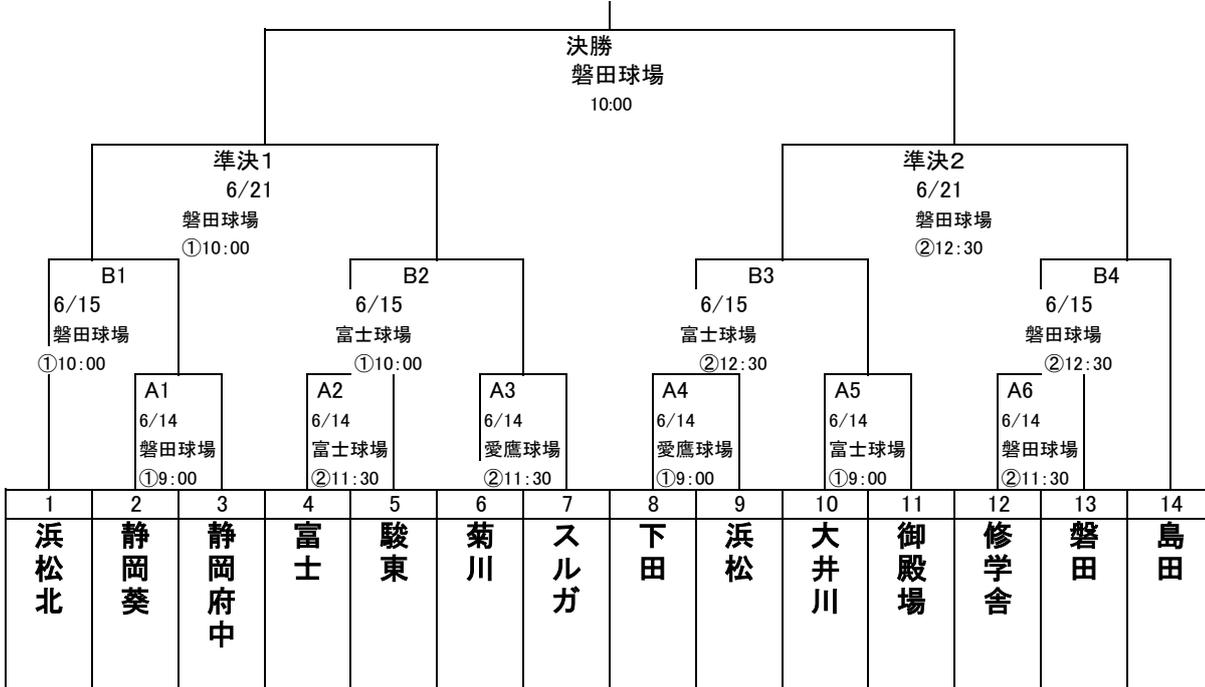
当日試合チームの父兄審判1名は、第一試合開始の1時間前に各球場審判部へ集合してください。原則的に、球審と二塁塁審は、全試合該当球場地域の常任審判員(BL2)で行います。

結果報告

担当チームは、試合結果を事務局長(富士:瀧澤代表)と事業部長(菊川:池田代表)に連絡

* 詳細結果用紙は、瀧澤広報部長へ写真メールしてください。

* 詳細結果用紙は、瀧澤広報部長へ写真メールしてください。



大会規定

- 1・中学生の部のチームの登録選手は11名以上25名以内（ベンチ入りは20名以内）とする。
- 2・出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟への登録済みの者に限る。
- 3・審査証は当年度発行のものとする。
- 4・オーダー表記入選手20名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、スコアラーのみベンチに入ることが出来る。但し、チーム責任者、監督、コーチ、選手は登録証を携帯すること。携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
- 5・組み合わせの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。但し、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
- 6・監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
- 7・試合開始時刻60分前に試合場に到着し、直ちにオーダー表を5部、大会用投球数記録表副3部及び大会初戦の時は、直前大会・練習試合投球状況報告書を大会本部に提出の上、所定の審査を受けなければならない。
- 8・オーダー表交換時に両キャプテンにより、先行、後攻をジャンケンで決める。
- 9・試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときは、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
- 10・試合方法など
 - ・中学生の部
 - (1)各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間（決勝戦は2時間）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先行チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデットゲームとする。
 - (2)4回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回表終了時）10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3)7回終了後、同点の場合はタイブレーク方式を実施する。
(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
- 11・投球制限について
 - ・中学生の部中学生の部レギュラー及び、ジュニアの試合での登板は、以下のとおり制限する。
 - (1)投手は、1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。
連続する2日間で80球を超えた場合、3日目は投球を禁止する。
また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を40球以内とし、4連投（連続する4日間）は禁止とする。
 - (2)大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
 - (3)(1)、(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。

(4)連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は登板最終日並びに翌日は捕手として出場できない。

(5)ボークは投球数としない。

(6)雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。

(7)2年生以下が投球する場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

(8)ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合は連続2日間投球した事とする。

また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。※詳細は別紙【投球数制限について】資料参照

(9)日程の変更(地区大会を含む)等で前大会と連続試合になる場合があるので、すべてのチームは「直前大会参加状況報告書」を次大会の最初の試合日に、次大会主催者宛てに提出しなければならない。

12・(1)監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。

延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示、伝達を認める。

(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。)

(2)守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない

(3)内野手(捕手を含む)が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。

(4)監督、コーチが指示を与える時間は、審判員がタイムと宣告してから30秒以内とする。

守備側がマウンドへ行く場合は駆け足で行くこと。

13・1イニングで同一の投手に対して指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置に着くことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。

ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。

14・審判員の判定に対する抗議は認めない。但し、ルールの適用についての確認は認める。

15・監督またはコーチが投手に指示などをするとき、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で)

16・2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

17・ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また打者が打撃を継続中、塁上走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

18・投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

19・各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具(マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ)2組を備えること。一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く。

20・ユニフォーム、バット、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

21・捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。

22・グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。

23・ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

24・光化学スモッグ発生の場合は、試合及び選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。

25・試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案してシートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

26・シートノックは大会登録選手25名受けることができる。但し試合に出場できるのはメンバー表20名。メンバー表に記載していない選手を出場した場合は以下の処置がとられます。

①試合開始前に判明した場合は、その選手の出場を禁止します。

②試合中・試合終了後に判明した場合は、没収試合となり、相手チームの勝利を与える。

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち又は表の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《 タイブ레이크実施細則 》

(1) 特別規則

(イ) 中学生の部は7回あるいは試合開始から2時間を超えて、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。

(ニ) この場合の代打および代走は認められる。

《 AED（自動体外式除細動器）所持の確認 》

・選手審査時にチームはAEDを所持しているか確認すること。

注意) AEDには有効期限があります。AED所持チームは、その有効期限に留意して常に作動できる状態にあるか確認して下さい。

《 投球数制限について 》

限統一ガイドライン」の適用例							考
	第 一 日 目	第 二 日 目	第 三 日 目	第 四 日 目	第 五 日 目	第 六 日 目	
投手A	80	0	80	0	80	0	80球投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球を超えても、1試合分の最大カウント数は80球)
投手B	80	40	休	80	0	80	第1日目80球、第2日目40球で連続する2日間で120球となったため、第3日目は投手・捕手として出場できない。(また、2日間で80球を超えているので第3日目は捕手して出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、第4日目は投手・捕手として出場できない。 第4日目が休みだったので、第5日目80球、第6日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	第1日目、第2日目で80球を超えたため、第3日目は投手・捕手として出場できない。 第4日目、第5日目で連続する2日間で80球を超えているため、第6日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40	休	80	0	休	第1日目、第2日目で40球以内の3連投をしているため、第3日目は投手・捕手として出場できない。第4日目は80球のため第5日目は投球した時点から1試合目に登板していなくても連続する2日間で80球を超えているため、第6日目は投手・捕手として出場できない。
投手F	30	休	40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投できないが、*連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手としては出場できる。 第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は、第5日目は投手・捕手として出場できない。

※数字は投球数。「休」は投手または捕手として出場できない日。「0」は登板しなかった試合。

※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。

大会開催運営に関する注意事項

1. 新型コロナウイルス・熱中症など関連対策

連盟より2024年7月1日付で発行された「新型コロナウイルス等の感染症対策及び健康管理について（新ガイドライン）」を厳守すること。

2. 撮影とSNS投稿の注意事項

当連盟所属チームの選手・関係者を撮影される際には、被写体となる方の肖像権に配慮いただき、個人が特定されるような方法で撮影しないようにお願いします。また、試合内容をSNSなどに公表される際には、選手・関係者の肖像権及びプライバシーに配慮し、これらの無断公表とならないようにすること。

3. 大会運営方法

(1) 大会運営について

- ・チーム到着時、帰途時の挨拶は「なし」とし、チーム責任者が登録役員・選手名簿、オーダー表、及び大会初戦の時は、直前大会・練習試合投球状況報告書を本部受付に提出すること。
- ・試合前審査(道具含む)は、前試合の4回終了までに整列して行う。選手は氏名、生年月日を発声し行う。また試合前のメンバー表交換の集合は球場責任者、審判、監督、主将、チーム責任者で行う。
- ・アナウンスは、当該試合チーム同士で行うこととする。

(2) 試合に関して

- ・ホームベース前は選手のみ整列とし、チーム責任者、監督、コーチ、スコアラーはベンチ前整列とする。

(3) 参加チームについて

- ・三脚等、カメラを固定しての動画撮影は禁止
- また、手で持ったの撮影についてもバックネット裏は禁止とする。
- ・鳴り物、メガホンを使用しての応援は禁止とする。

以上

新型コロナウイルス等の感染症対策及び健康管理について(新ガイドライン)

【本ガイドラインの目的】

新型コロナウイルスは、昨年5月8日に2類から5類へと移行されて1年が経過し、この間、感染拡大期はあったが、大きな被害はなく沈静化してきたといえる。

しかし、未だにコロナ罹患者にブレインフォグ(極度のうつ症状)等の後遺症に悩まされている方や依然として高齢者や慢性疾患を持っている方にとっては、脅威のウイルスであることには変わらない。

今後とも大規模な新興感染症が起これるため、今回改めて、新型コロナウイルス、インフルエンザ等を含めた幅広い日常的な感染症対策をとり、子どもたちの健康管理を行うことを目的とした本ガイドラインに改訂する。なお、このガイドラインに記載している「感染」とは、上記の新型コロナウイルス等感染症に感染した場合を指す。

当連盟として、子どもたちやその家族が安心して野球にとりくめる環境を提供する責務から、本ガイドラインを基本として感染症対策に当たっていくこととする。

1.活動参加に際しての健康管理について

(1)日常的な健康管理

- ①当連盟に参加する全ての関係者(保護者等含む)は、当日の体温を測り、熱・風邪症状等の体調不良が見られた場合は、活動に参加せず、欠席すること。
- ②チーム代表は、社会の感染状況やチーム近辺での感染流行について把握し、選手や指導者を含めたチーム内の健康管理に努め、必要な時にはチーム活動の休止等の措置がとれる管理体制を確立すること。
- ③食事前等、石鹸等による小まめに手洗い、消毒をすること。
- ④各チームは、保健衛生用品として体温計、石鹸、洗剤、アルコール等を常備しておくこと。
- ⑤濃厚接触者の定義はなくなったが、仲の良い友達、家族等同居者が感染した場合は、チーム活動が屋内やベンチ等の密になる場合は、当該選手等に対しマスク着用を勧めるなど代表が適宜判断すること。

(2)感染拡大期等の予防対策

- ①チーム活動当日は、チーム内全ての関係者に発熱や咽頭痛・咳などの有症状者がいないか等の健康管理を徹底し、有症状者が判明した時点で直ちに当該者有症状者を自宅に帰す等の措置をとり、受診を勧めること。
- ②バス及び自家用車の相乗り等の移動時には、常時換気を行い、出来ればマスク着用を推奨する。
- ③宿舎内は換気をこまめに行うこと。感染が疑われる場合等はチームとしてマスク着用について適宜判断すること。

2.感染者の取り扱い等について

(1)感染者の活動欠席期間について

学校保健法施行規則では、出席停止の期間の基準を「発症した後五日を経過し、かつ、症状が軽快した後一日を経過するまで」と規定しており、これを適用する。発症日の翌日起算。

(例) 7月2日に発症、7/3が第1日目となり7/6が5日目となり、7/6の朝に軽快したとすれば、7/7の朝以降からチーム活動に復帰できる。7/5までに経過していた場合は7/6から参加できる。なお、無症状者の「発症」日は従前から検査した日と規定されている。

(2)チーム活動停止の検討について

①所属する選手が20名以上のチームは指導者含めてチーム人数の2割の感染者を出した場合は、チーム活動の停止を検討し、停止する場合は2日間経って他に感染者が出ていないか確認し、健康管理の上、問題なければ活動を再開する等、停止期間については有無を含めてチーム代表が判断する。

②所属選手20名未満のチームは5名以上感染者が出た場合、上記の2-(2)-①適用する。

3.主催大会等の規則

(1)通常時

大会時の規定はコロナ禍以前の現行の連盟規約、大会規定、大会運用細則等を適用する。

(2)感染拡大期等

①感染拡大期等は、第1項-(2)「感染拡大期等の予防対策」を適用すると共に、大会審査時における選手の氏名等の声出しを中止するなど主催者が過去の経験と従前のガイドラインの対策を参考に社会の感染状況に合わせて、適用範囲を明確にし適宜判断する中で感染拡大の防止に努めること。

②大会欠場について、大会主催者は、第2項-(2)「チーム活動停止の検討について」の基準により、感染者が出た当該チームを欠場とさせることができる。

※感染拡大期とは、「第10波」等の「波」で象徴される社会での大流行期を指し、感染拡大期等は、チームにおいては、チーム内で複数人感染が判明したり、選手が通う学校で学年・学校閉鎖が起り、放置するとチーム内での感染拡大が危惧される場合を指す。

1. 投球数の定義

試合中に投手が捕手に向かって投げた球とする。

以下の場合、球数としてカウントしない。

①牽制球

②ボーク

※ただし走者なしの場合のボークで投球動作中にボールが手から飛び出し、ファウルラインを超えて「ボール」と宣告された投球数はカウントする。

③当該打者へ申告敬遠を行ってからの投球数

※雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする。

2. 投球数の管理

①球場責任者は、スコアラー1名、投球数管理責任者と投球数管理者の2名を配置する。

②投球数管理責任者は別紙「投球数集計表(原本)」により記録する。

③もう一人の管理者は、カウンター、得点版(代用)等の器具を用いて投球数を計測する。

④イニング終了時に投球数管理責任者、管理者とスコアラーにより投球数を一致させる。

⑤投球数が一致しない場合は、3人のうち多い方を投球数と決定、3者が一致しない場合は投球数管理責任者の投球数を記録する。

⑥確定した投球数を次のイニング開始前にアナウンサーが球場にアナウンスする。

⑦投球数はイニング毎の投球数及びその投手の総数の投球数をアナウンスする。

(例「この回の得点は○点、投球数は○球です。なお、△□投手の総投球数は○球です。」)

⑧各チームはアナウンスされた投球数と違うと判断した場合は、監督がタイムをかけて球場責任者及び投球数管理責任者と協議して投球数を決定する。

3. 運用・管理方法について

①当日の試合終了後、勝ち上がりチームは、「投手投球数記録表」(副3枚)を作成し球場責任者に提出すること。なお、当面は「投手投球回数記録表」(副)を代用して差し支えない。

②球場責任者は提出された「投球数記録表」(副)を上記2の投球数管理のもとに間違いがないかを確認し、「投手投球数記録表」(正)を作成、署名交付する。

③球場責任者又は勝ち上がりチームが責任を持って翌日以降の大会の球場責任者に対して、「投手投球数記録表」(正)及び(副3枚)を引き継ぎ、球場責任者は「投球数集計表(原本)」を保管する。

④翌日以降の球場責任者も①～③の手順に沿って投球数管理を行い最終的に大会本部に引き継ぐ。

大会観戦時の注意事項

【 撮影とSNS投稿に関して 】

当連盟所属チームの選手・関係者を撮影されます際には、被写体となる方の肖像権にご配慮頂き、個人が特定されるような方法で撮影されないようにお願いします。

また、撮影は手持ち撮影のみとし、三脚の使用や球場設置物へのカメラの固定は禁止いたします。

試合内容をSNSなどで公表される際には、選手・関係者の肖像権及びプライバシーにご配慮いただき、これらの無断公表とならないようにお願いします。

【 応援に関して 】

球場利用上のルールにより、声、拍手以外の鳴り物の使用は禁止いたします。

いつもご協力・応援ありがとうございます！

(公財) 日本少年野球連盟



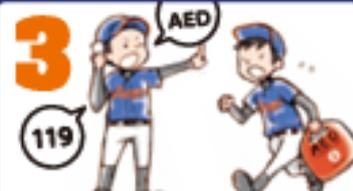
必ず選手を助ける！ 9分間の戦い！



1 グラウンド内で
選手等が倒れたら、
チーム関係者を呼ぶ



2 倒れている選手等に対し、
肩を叩きながら
耳元で呼びかける



呼びかけに対し反応が無い、または
わからない場合はチーム関係者を呼び、
119番通報とAEDの搬送
を依頼する

4

胸骨圧迫は胸の真ん中を
約5cm程度圧迫する。

胸骨圧迫30回対
人工呼吸2回を実施する。

呼吸をしていれば気道確保、
または回復体位をとる。

心肺蘇生
について

胸骨圧迫
30回

人工呼吸
2回

気道
確保

※人工呼吸時に顔が密着する場合は、
AEDの顔面シールドを必ず
取り付けて、救命処置を行う。



呼吸を確認し、呼吸をしていない、また呼吸をしているかわからない場合でも、

直ちに心肺蘇生とAEDの使用を開始する

救急車が現場に
到着するまでの

約9分

救命処置をすることが
極めて重要!!



AEDを装着した後は、
AEDの音声メッセージに従い、
電気ショックや
心肺蘇生を行う



グラウンド入口にチーム関係者を配置し、
救急車の誘導を行う
また、救急隊が到着したならば
具体的に状況を説明する

救急車を球場内へ案内



恐れずに、勇気を持って行動を

賛助会のご案内

「未来の野球少年たちと一緒に応援しませんか？」

日本少年野球連盟の賛助会は、社会のさまざまな分野で活躍されている企業の皆様、地域の皆様から寄せられたご支援により、全国各地で様々な活動を行い、次世代の野球選手を育て、子どもたちが夢を追い続けられる環境を整えています。



公益財団法人 日本少年野球連盟

ボーイズリーグ



詳細はこちらから

熱中症警戒アラート発令

熱中症予防のために

- 毎朝、朝食を摂ろう
- のどが乾く前に水分補給をしよう
- 塩分を定期的に摂取しよう
- 睡眠は十分に取らしましょう

<こんな症状が出た時は>

- めまい
- 立ちくらみ
- 生あくび
- 大量の発汗
- 筋肉痛
- 筋肉のこむら返り

球場運営委員にお声かけください!!



公益財団法人日本少年野球連盟

下田ボーイズ

駿東ボーイズ

スルガボーイズ

大井川ボーイズ

浜松修学舎ボーイズ

代表 宮本浩和	代表 鈴木 貴司	代表 棚山 浩志	代表 森重 明	代表 倉島 裕貴
監督 渡邊夏樹	監督 松尾 良太	監督 工藤 隆	監督 袴田 晋矢	監督 宮澤 明聡
コーチ 臼井悠介	コーチ 中川 清猛	コーチ 鈴木直也	コーチ 江塚 諭	コーチ 辻岡 裕汰
マネージャー	マネージャー 岩崎 望	マネージャー 池谷 悟	マネージャー 伊藤 謙佑	マネージャー 山崎 晴哉
6 主将 鈴木 夢人 3年	9 主将 山本 妃奈 3年	22 主将 吉野 瑛翔 3年	2 主将 青野 眺大 3年	4 主将 山下 唯斗 3年
1 石井 世夏 3年	4 岩崎 晴空 3年	3 池谷 希夢 3年	0 高田 颯 2年	1 渡辺 慈人 1年
2 後藤 嵐 3年	5 鈴木 佑 3年	4 渡邊 大地 3年	1 大倉 一紗 3年	2 田口 凌楽 2年
3 阿部 蒼大 3年	6 長澤 幸希 2年	5 竹内 侑斗 3年	4 菊地 流星 3年	3 松下 栄琉 2年
4 後藤 虎太郎 3年	12 鈴木 佑空 2年	6 八巻 行正 3年	5 伏見 航星 3年	5 藤田 奏 2年
5 久住 晴道 3年	14 山口 剛虎 3年	8 横山 幸生 3年	8 大井 聖奈 2年	6 渡辺 一伍 2年
7 太田 麦 2年	16 山下 実希 2年	17 古見 颯人 3年	9 大井 健翔 2年	7 伊原 幸汰 3年
8 菊池 春来 3年	17 原田 大雅 2年	18 永沼 良太 3年	15 杉村 竜平 2年	8 金原 柚 2年
9 木村 八起 2年	18 井上 結斗 2年	19 青沼 剣吾 3年	19 中山 颯 3年	9 鈴木 瑛翔 1年
10 矢野 道 2年	19 松見 新太 3年	20 松本 蒼太 2年	21 望月 康太郎 3年	10 手塚 勇虎 2年
11 唐島田 芽衣 2年	20 土屋 恭平 3年	25 房 睿 2年	22 園田 彪馬 2年	11 野末 樹 3年
12 臼井 煌一郎 2年	21 大庭 都和 3年	27 橋本 将希 3年	23 岡村 遥真 2年	12 白鷺 拓弥 2年
13 石坂 旭 2年	22 鈴木 陽楽 3年	28 鈴木 大也 3年	27 内田 周汰 3年	13 太田 力 1年
14 千島 陽菜斗 2年	23 難波 燈空 3年	35 北原 健志郎 2年	34 杉浦 拓実 3年	15 相澤 颯太 1年
15 内山 遥仁 2年	24 永塚 陽向 3年	51 鈴木 司 3年	35 鈴木 梁太 3年	16 古田 空丸 1年
16 佐藤 煌華 3年	25 米倉 真毅斗 3年	54 関 緑里 2年	38 北川 雅 3年	17 近藤 晴輝 3年
17 唐島田 泰 2年	28 市川 育鷹 2年		41 竹下 想生 3年	18 和田 脩吾 3年
18 伊藤 春 3年	33 菊間 壮佑 3年		55 岸端 一樹 3年	19 小島 颯也 1年
19 堤 蓮王 3年	42 堀内 鉄匠 2年		59 曾根 希海 2年	20 野末 新 1年
20 八代 煌月 3年	44 前田 遼斗 2年		66 太向 響 3年	21 和田 鳳吾 1年
21 小川 敬人 1年	45 岩崎 龍空 2年			22 鈴木 嬉音 2年
	47 繁松 由空 2年			23 加藤 伶八 3年
	51 伊山 莉叶 3年			
	81 桃野 颯斗 3年			
	99 大森 朝陽 2年			

静岡葵ボーイズ

代表	芦澤 厚史
監督	池谷 謙太
コーチ	西ヶ谷 圭介
マネージャー	
6	主将 石垣 温暉 3年
0	松江 太揮 2年
2	濱田 慈仁 2年
4	遠津 悠斗 2年
5	曲田 和樹 2年
7	中川 太陽 3年
9	杉山 蓮祇 3年
10	佐藤 新 3年
12	山下 開世 2年
14	佐野 愛太 2年
18	佐野 光星 2年
19	青木 善 2年
21	原田 星亜 3年
22	宮地 優和 3年
23	佐藤 大真 2年
24	長利 怜皇 2年
26	杉本 麗悟 2年
41	西ヶ谷 莉園 2年
51	川口結衣 2年
55	倉永 夏希 3年
83	有賀 夢生 3年

浜松北ボーイズ

代表	富樫 憲之
監督	山道 伸之
コーチ	渡邊 裕文
マネージャー	西 勇樹
89	主将 絵鳩 大河 3年
6	島村 琉聖 2年
11	杉本 悠斗 2年
12	藤田 彪真 3年
15	中村 武琉 3年
19	西 秀虎 3年
22	井口 琥太郎 3年
23	伊藤 凌一 2年
27	渡邊 健介 3年
30	高林 陽宜 3年
33	安川 凜音 3年
37	加藤 佑來 3年
40	仲山 航生 3年
42	菅原 慶太 3年
44	大柳 翼 2年
49	齋藤 倅次郎 2年
70	鈴木 大駕 3年
74	室内 蓮叶 3年
75	堀内 陽登 3年
81	内藤 志音 3年
86	長谷川 翔大 3年
88	絹村 遼 3年

浜松ボーイズ

代表	梅谷 保彦
監督	60 中村 永司
コーチ	50 秋山 佳史朗
マネージャー	畑中 紳吾
6	主将 河合 遼 3年
0	伊藤 優臣 3年
1	長倉 壮太 3年
2	鎌田 翔介 3年
3	白木 恭平 3年
4	中尾 紫音 3年
5	鈴木 哉多 3年
7	中村 悠人 3年
8	伊藤 愛琉 3年
9	藤田 晃輝 3年
10	尾崎 瑠偉 3年
11	澁谷 旺祐 3年
12	安間 優輝 3年
13	佐伯 虎志朗 3年
14	久米 煌河 2年
15	袴田 鳳雅 3年
16	梅谷 大翔 3年
17	奥田 大翔 3年
18	杉田 昊輝 3年
19	藤原 慶太 3年
20	仲秋 蓮輝 2年
21	小林 大士 2年
22	笠原 聖維 2年
23	彦坂 琉羽 2年
24	北澤 湊 2年

御殿場ボーイズ

代表	芹沢 輝充
監督	松田 碧海
コーチ	横手 幸太郎
マネージャー	松田 幸夫
6	主将 勝俣 拓真 3年
1	山下 晋太郎 3年
2	菊地 頼翔 1年
3	杉山 琉晟 3年
4	宮崎 遥也 2年
5	湯山 聡士 3年
7	貞廣 航汰 3年
8	坂口 太絆 3年
9	植田 友惺 3年
10	小野 賢人 2年
11	室伏 真寿 1年
12	小林 悠 1年
13	龍光 夏輝 1年
14	杉山 仁太 1年
15	土屋 夏鈴 1年
16	鈴木 海斗 1年

菊川ボーイズ

代表	池田 竜司
監督	鈴木 修平
コーチ	後藤 英希
マネージャー	横山 春満
72	主将 竹内 蓮 3年
20	鳥内 喜成 3年
22	植村 大誠 3年
30	牧野 蒼太 3年
34	山崎 吉新 3年
36	柳澤 蒼介 3年
38	磯部 勇斗 3年
39	加藤 蒼稀 3年
41	松井 侑晟 3年
42	木ノ戸 望煌 3年
43	松井 稜芽 3年
45	阿野 斗哉 3年
46	山下 雄大 3年
49	荒木 湘吏 3年
52	藤田 莉生 3年
53	曾根 勇斗 3年
56	海福 大和 3年
61	紅林 耀斗 3年
62	天野 豊 3年
65	横山 唯月 3年
66	山崎 愛斗 3年
67	渡辺 晴大 3年
74	齋藤 遥大 3年
77	和田 奏亮 3年
78	内山 斗夢 3年

磐田ボーイズ

代表	中村 好寛
監督	吉村 正之
コーチ	中山 泰成
マネージャー	黒木 将弘
10	主将 村松 蓮介 3年
2	長谷川 侑世 3年
3	戸塚 陵太 3年
8	山口 瑛大 3年
9	密岡 大隼 3年
11	伊藤 千理 3年
16	山崎 隼誠 2年
17	廣岡 叶翔 3年
19	高橋 祐翔 2年
21	久保 智 3年
24	安間 蓮輔 2年
38	井熊 泰久 3年
39	大石 徠翔 2年
41	落合 雄平 1年
45	竹下 綾也 2年
51	萩原 煌馬 3年
55	西尾 颯馬 2年
56	小倉 陽虎 3年
77	萩原 碧月 1年
99	畠中 大和 1年

富士ボーイズ

代表	瀧澤 佳孝
監督	瀧澤 将美
コーチ	栗田 靖之
マネージャー	栗田 貴史
29	主将 渡邊 優 3年
1	大箸 大和 1年
2	吉田 隼梧 2年
3	湖山 知承 2年
4	栗田 和城 3年
6	因石 隼士 2年
9	芦澤 隆太 3年
13	白旗 海来 1年
18	小林 新 1年
21	仁藤 理徠 2年
23	仁藤 蒼良 2年
25	矢野 雄晴 2年
33	岩見 紘之進 2年
51	勝又 諒 2年

島田ボーイズ

代表	山田 登
監督	鈴木 亨
コーチ	飛弾野 清治
マネージャー	奥津 和長
10	主将 鈴木 瑛介 3年
4	鈴木 琉斗 3年
5	山内 仁 2年
12	高橋 玲 3年
16	増田 慧太朗 3年
19	上田 淳吾 3年
24	宮城 吏玖 3年
26	辻村 聡太 3年
27	萩原 颯士 3年
32	山下 友之介 2年
33	坂田 吟次 3年
34	高橋 凌 3年
35	澤口 修次 3年
36	大川 銀士 3年
37	浅原 要 3年
38	横山 紘 3年
39	中原 琥優 3年
44	加藤 旭陽 3年
52	二木 愛侑斗 3年
56	辻村 悠汰 3年
61	大石 楓士 3年
62	藤本 翔太郎 3年
66	宮城 富士 3年
77	袴田 幸次郎 3年
82	加藤 夢都 3年

静岡府中ボーイズ

代表	熊切 大介
監督	望月 淳
コーチ	松永 康裕
マネージャー	大畑 真也
6	主将 法月 暖真 3年
1	寺田 遥斗 3年
2	山際 敦仁 3年
3	小長谷 優誠 3年
4	曾根 空柁 3年
5	森 啓人 2年
7	鈴木 瑛人 3年
8	佐藤 蒼真 3年
9	渡邊 大和 3年
10	蓬生 晴人 3年
11	青木 佑陽 3年
12	堀江 悠斗 3年
13	富永 太市 3年
14	板倉 悠晟 2年
15	澁谷 灯歩 3年
16	増田 愛海 3年
17	森下 寛大 2年
18	里見 颯祐 2年
19	府川 真大 2年
20	飯塚 陽翔 2年
21	小澤 司 1年
22	花田 隼汰 1年
23	倉橋 幸祐 1年
24	佐藤 佑海 1年
25	阿部 夏樹 1年

